

佐川修氏は、1931年韓国全羅南北朝道の生まれ。1945年、14歳の時に東京大空襲の火傷の際の受診で「ハンセン病」の宣告を受ける。以来63年間、社会のハンセン病に対する差別と排除に加えて、韓国籍であることから二重三重の差別を生き抜くことになった。そして、自ら「ハンセン病」を生き、偏見・差別をなくすため、歴史を保存し、語り、未来につなぐ活動をしていく。

「偏見・差別は無知から生まれる、ハンセン病の歴史を正しく伝え、ハンセン病に対して犯した偏見・差別の過ちを二度と繰り返してほしくない。」

そして、1993年、ハンセン病の歴史を保存するための「高松宮記念ハンセン病資料館」が設立される。その開館に向けて、運営委員として資料収集、展示の企画など制作指導に多大な力を注いだ。さらに、1993年〜2006年の間「語り部」活動として来館者23,106人に語った。その後ハンセン病資料館の拡張と新しい展開のために、国立ハンセン病資料館の企画・設立に委員として参画。2007年3月には、ハンセン病の歴史を未来に伝えるために国立ハンセン病資料館の運営委員および語り部として開館以降1年4か月で7,295人に語り(1993年から通算30,401名に語る)、今もなお活動を続けている。

その他、全国ハンセン病療養所入所者協議会の本部員として、医療・看護・福祉・生活環境の

偏見・差別は無知から生まれる、ハンセン病の歴史を正しく伝え、ハンセン病に対して犯した偏見・差別の過ちを二度と繰り返してほしくない。

ハンセン病を生き、 歴史を保存し、歴史を かたり、未来につなぐ



来館者にハンセン病の歴史について語る佐川氏

改善に尽力してきた。多磨全生園自治会に所属し、周辺自治体の中学・高校などにハンセン病の歴史、人間の尊厳と人権など、語りを通して社会啓発活動を行っている。役員、副会長の後、2006年に会長に就任。ハンセン病の資料を後世に残すことに大きく貢献している。

さらには、在日韓国・朝鮮人患者同盟の運動を、陰で支える活動も行っている。



■「ハンセン病と人権」について講演後、参加者と会場前にて

さがわ おさむ
佐川修 国立療養所多磨全生園入所者自治会 会長



推薦者 紀伊國 献三 財団法人笹川記念保健協力財団 理事長

国立ハンセン病資料館の設立時、ハンセン病に対する偏見や差別をなくすため、ハンセン病資料収集の専門家として協力。また、ハンセン病の歴史を生きる当事者として、語り部活動を行っている。今もなお、多くの人々に語り続けている。2006年より、多磨全生園入所者自治会会長を務める。